



静中動

—すっかり春になりましたね。

寿玉—気分新たに、今日は少し、踊りのことを話したいのですが。

—それはいいですね。

寿玉—最近よく、恩師たちがおっしゃっていた言葉を思い出すのです。恩師たちは、言葉で踊りを教えるようなことはなさいませんでした、こういうことが大切だ、などということをよく話して下さいました。

—私も是非、伺いたいです。

寿玉—よく、踊りの中で「**정중동** (静中動)」という言葉が使われます。先生によって2通りのことをお話になりました。多分、もとは「**음양** (陰陽)」からきた言葉だと思います。

ひとつの言い方は「静の中に動があり、動の中に静がある」つまりその両面を備えていないてはならないということ。

また、もうひとつの言い方は、

この言葉を3つに分けて「静とはエネルギーの無い休止状態ではなくて、エネルギーが溜め込まれていき、これから運動が起ころうとする状態。動とは、溜め込まれたエネルギーが表現の形をとって爆発やプリーと呼ばれる姿をとりながら開放されていく状態。そして中とは静と動の両面を持ち双方を繋ぐ状態、あるいはせめぎ合いや流れのような状態」といわれました。

私には、どちらがこの言葉の正当な解釈なのかということとは分かりませんが、両方とも、

韓国舞踊の真髄をあらわしていると思います。

—静、中、動、姿を変えながらも決して絶えることの無いエネルギーの連続のようなものを感じさせる言葉ですね。

寿玉—そうなんです。何かが綿々と繋がっていくという意味では、「**연륜이있다** (年輪がある)」ということもよく言われました。日本語で言うと「年

季が入っている」というような意味なのですが、自分で年季を入れていくという感じではなく、自然の連続の中で、春夏秋冬、太陽と月、光と影のような変化のうちに、知らぬ間に身についた「磨き」がかかっているというような意味合いです。「磨き」といいますが「**그늘이 있어야 한다** (陰が無くしてはならない)」ということも言われました。この「陰」というのも単なる「暗さ」ではなく、人生の辛酸をなめた、いぶし銀の輝きのようなことです。

—美しくて能力があっても、

若くては踊れない踊りもあるとか？

寿玉—そうですね。舞台芸術としては、洗練されていないと、良しとはされない都会的な鍛錬の世界もあるので、それでこぼして来たものも多くあるでしょうね。

「**신명나다** (心が開放され、いつもと違う力に溢れて興に乗った状態)」という韓国で良く使われる言葉があります。これは極端かも知れませんが、

専門家でない普通の人たちが、特に老練な人たちがこの状態で踊っている姿は、実に格好良く、心を打たれることがあります。

また、技術や姿かたちの美しさだけでなく「**곰삭아야 한다** (よく漬からなくてはならない)」つまりは熟成しなければならぬということもよく言われました。

—おいしいキムチや塩辛のお話みたいですね。

寿玉—(笑) そうなのですよ。体の使い方「立と曲」とか、

メリハリを大切にとかが言われますが、それがさらっと自然に身につくには時間と粘りが必要であることを学ばされます。先生は良く「**대삼** (大衫) **하고 소삼** (小衫) **이 반드시 있어야 한다**」といわれていました。これは強弱のことで、勿論全ての陰陽にも繋がります。韓国舞踊の美学のひとつかもしれませんが、どんなに目立つても不自然なものは格好がよくないのです。そのためには、日々の積み重ねが大切で「**미련하게 연습해야 한다** (愚直に練習しなければならぬ)」と言われた師の言葉を思い出します。

韓国舞踊…見ているだけですとノンシャランとして今にでも出来そう。ところが実際にやってみようと思うと、ただ歩くだけでも…。冬枯れの中でも脈々といのちが流れ、暗い地中に深く根張りを広げ、明るい天空に向かって新緑の枝を広げる年輪の刻まれた大きな木を思います。

趙寿玉の世界と言葉語り

椿座 松本 貴子

趙寿玉の踊りを初めて見たのは2002年です。しなやかで強い中にたおやかさが瞬間きらめく踊りに惹かれました。しかし最も印象的であったのは踊り終わった後で舞台に挨拶に現れた趙寿玉の凛とした気配と共演者を紹介する彼女の所作の美しさでした。

踊り終えた昂揚の中にいる彼女の周囲に沢山の人が舞台に上がり踊りの輪となるのですが、彼女の心からの御礼の気持と気遣う仕種が美しく最後まで魅了されました。

趙寿玉が椿座と出会ったのは2003年の3月浅草の古い蔵の中でした。そこは1945年3月の東京大空襲でわずかに焼け残った蔵で、この蔵を継いだ方が手前にカフェをつくりその奥にある蔵をギヤラリーにされ、椿座はこの蔵の中で「・」（ここと読みます）という公演をしました。「・」で使われた多くの言葉の中で彼女が捉えた言葉は入沢康夫の「ワレラノアイビキノ場所」でした。趙寿玉と椿座は

この詩を携えて2005年5月「丈ノ高イ草ガ」という題名で最初の試みを致します。時間やスペースの制約がある中で必ず次につなげようと思っただ、刺激的な共演でした。

さてここまでご覧いただきまして多くの方が「椿座とは何？」と思われていることでしょうか。実は説明が難しいのです。うまくお伝えできればいいのですが……。

「言葉語り」と申しまして、様々な詩歌、散文、時にはまったく意味の無い言葉を語ります。ある時はその場所の物語を、又ある時はその場に存在する事柄すべてで物語を作り上げます。朗読とは違います。言葉の意味ではなく、できれば言葉そのものをその場で表現したいと不可能な事も考えたりします。声や言葉や場という様々の要素が含まれていますが、とても単純な事です。その場所で様々の言葉が語られ、ある瞬間聞こえた言葉で無限に想像が始まりましたらそれは当りです。

趙寿玉が言葉を捉えたのはまさに椿座の意図の真芯でした。椿座との時間を過ごす中で自分の楽しみや必要を見つけていかれる事が一番嬉しいのです。少しはお判り頂けましたでしょうか？お出かけ頂ければ「なあんだ」という単純な事なのですが説明するといつも難しくなってしまう。

次につなげようと約束した公演がようやく形をとりだしました。今年の10月に趙寿玉と椿座は新たな挑戦をします。小さな

お能の稽古舞台です。都会の喧騒の中にぼっかりと静かであり古びた空間が存在します。演目は「平家物語」の「大原御幸」を骨格にしたものです。栄耀栄華を極めながら、その後一族が衰亡する中で生きながら六道を輪廻し、大原の里で寂し

い晩年を終えられた建礼門院を趙寿玉はどう捉えるのでしょうか？

所作の美しさが背景にある彼女に相応しい物語だと思えます。椿座も今回は「言葉語り」だけではなく「物語り」という内容に即した語り方も交えて、「平家物語」という語り物の最高峰を語りたいと思っております。この秋にご覧頂ければ幸いです。（文中敬称略）

沢知恵コンサート

2007/5/25(金)

めぐろパーシモンホール
18時開場、19時開演
チケット4千円(全席自由)

主 催：自由が丘コリアンキャッツ
問い合わせ：03-3720-1125



名古屋国際空港公演報告

キム
ミン
金 玫

去る2月24日、趙寿玉先生はじめチュムパンの会6名は、開港二周年を迎える名古屋国際空港（セントレア）での記念イベント出演のため、新幹線で名古屋に向け出発しました。公演は国際空港らしく、中国をはじめとするアジア各国の民族芸能を紹介する構成となっており、セントレアオープン2周年を記念して、賑やかに盛り上げるものとなっています。

韓国舞踊は、五方舞（オーバンチュム）に始まり閑良舞、杖鼓舞（チャングチュム）、扇舞（プチェチュム）、小鼓舞（ソゴチュム）と五つの演目を披露し、その盛りだくさんな内容と衣装の華やかさに、会場では溜息が漏れ、たくさんの



拍手をいただきました。特に杖鼓舞の曲「オナラ」（テレビドラマ「チャングムの誓い」テーマソング）が流れ出すと、聞き覚えのある曲に会場はひと際引き込まれた様子でした。

出演者としては、午後からの2回のステージは、時間的にも精神的にも余裕のない厳しいものでしたが、詰め掛けた大勢の方々の熱い眼差しと笑顔に励まされ、とても楽しい公演となりました。

ステージを降りると、韓流ファンだという方々が「よかったです」と声を掛けてくださったり、近づいて写真や握手を求めて来られたりしました。また在日のハルモニと思われる方が熱心に舞踊や衣装について誇らしげに説明している姿を眼にし、私自身やや大げさかもしれないですが、韓国舞踊を舞う喜びを感じることができました。

これまでチュムパンの会では、このようなイベント的なステージは多くなかったよう

ですが、どんな舞台であっても、力を抜かず気を抜かず、舞踊はもちろん衣装も含め「本物」を提示しようとする先生の姿勢にあらためて学ばせていただきました。また、ほんの短

『桜まつり』に参加して

柏木 美奈

桜まつり当日は、目黒川を包みこむように兩岸の桜が満開だった。

到着するとまず、今にも降り出しそうな花曇りの空の下、会場の『ふれあい橋』中央にシートを貼った。花見の場所取りと勘違いもされたが、これが今回の特設ステージとなった。

『ナグネの会』の演奏がはじまり、一曲目は玄琴立舞（コムンゴイプチュム）。オンニ達の色とりどりのチマチョゴリが、咲き競う花のように華やかだ。続く先生の鳥打令（セタリョン）では、手強い風すらも味方につけて優雅に伸びやかに舞う姿に、客席から「綺麗ねえ」と溜息がもれていた。

一緒に参加されたフラのグループの踊りなどはさみ、後半は韓国ドラマのテーマソングに乗って先生と四人のオン

い時間でも観てくださる方々が楽しんでくださることで、踊り手が満たされるということも知りました。チュムパンの会にとってもたいへん有意義な公演だったと思います。



二達による杖鼓舞（チャングチュム）で始まった。先生と辛錦玉オンニが残って、息の合った豊かな掛け合いをされたが、それに見惚れる余裕もなく、扇の舞（プチェチュム）では私もステージへ。風に煽られシートに足をとられ、なんとか三分間を乗切ると、入れ替りに、桜の精かと思まごう純白の衣装の趙富子オンニが、幽玄なサルプリ舞で舞台をはずめてくれた。

そしてクライマックスは太鼓舞（ブクチュム）。縦横無尽に広がったり回ったり、はずんで弾ける音と動きは圧巻の迫力だ。その勢いのまま突入したシメのティップリは、目黒区長はじめたくさんの方にご参加いただいた

賑やかで大きな輪となった。この日の為にと重ねた練習や準備を思うと、本番の時はまさに一瞬だった。風のように過ぎ、あつという間に終わった感じだ。花よりも儂いなあ、などとはんやりしているのは未熟者の私だけだった。気付けば今までステージだったシートの上で、今まで華麗に舞っていたオンニ達が、エプロン姿も凛々しく鍋を作り始めている。

チュムパンの会名物、絶品テッチャン鍋を、「もう無理です！」というほど味わい、飲んで、笑って、朧の月が空に上っても、たくましい宴は続いたのでした。

3月31日、目黒川をきれいにする会主催の『桜まつり』にチュムパンの会が参加しました。



あのサルプリをもう一度

菅 裕美



高校生の頃韓国に行ったとき、韓国の舞踊を見て、その優雅で格調高い美しさに深い感銘を受けた。耳に新鮮なカヤグムなど韓国の楽器の熱気を感じさせる音色や、豊かな曲線と広がりをもつ衣装は、日本人の私から見るとどこか幻想的で大陸的な熱気を思わせ、ひどく心惹かれるものがあった。その時からいつしか韓国舞踊を習ってみたいという気持ち常在に心の中にあつて、実際にチマを身につけて韓国のおどりを踊ってみると韓国舞踊を始めたのだという実感が湧いてくる。

そして日本舞踊をしている為に見えてくる両者の舞踊のあり方を、日本人の視点から比較をすることもしてみたいと思う。日本舞踊は例えば恋をする女の内に凝縮された感情をときにとりと、時に激しく表現したものや、歌舞伎などで登場する物語の中の人物に扮し全体の踊りを通してある役を演じ、物語を立ち上げて行く、というように芝居的な要素が強いが、韓国古典舞踊においてはサルプリにおいてハン(恨)を表現する、といったようにある観念世界を表現する、といった要素が強いように感じる。

ところで私は以前にハンと何となく懐かしいような、ぬくもりと悲しさが共鳴しあっているような響きをもつ言葉に強い憧れを抱いていた。日本の本にハンについて書かれている箇所を探してみるると具体的には次のようなものだった。(ハン)という韓国語

に最もよくあてはまる日本語は、「あこがれ」なのである。そのあこがれが何らかの障害によつて挫折させられたという悲しみ・無念・痛み・わだかまり。つらみの思いでもある。(『韓国は一個の哲学である』小倉紀蔵 1998年 講談社現代新書)

この説明の意味は理解できる。しかし人生経験の浅い私のような小娘には、いまひとつ実感として迫ってくるものがない。とは言え去年の発表会で拝見させて頂いた、林鮮玉オニのサルプリにあくまで私の個人的な感覚であるけれど、そういったハンの世界のようなものを感じると感ぜられたような気がする。ある観念が踊り手の足さばき、手や腕の微妙な角度によつて重複され、大きな「圧力感」となって見るものの胸に迫ってくる、サルプリを見て思わず涙を流した人の話を聞いた事があるが、わたしもそのような得難い貴重な体験をするこゝろができて大変幸せに感じている。偉そうなことを書き連ねてしま大変申し訳ないけれど、私は思う。あの時迫ってきた「圧力感」は林鮮玉オニが歩まれてきた中で積み重ねてきた様々な感情、人生の重みそのものではないかと。

趙寿玉舞踊教室のご案内

問い合わせ先：03-3269-3258 趙富子

月曜クラス			
初級	毎週月曜日 午後1:30~5:00	基作 セタリオン	本品 麻布十番 民団中央地下スタジオ
火曜クラス			
中級	毎週火曜日 午後1:00~5:00	基作 本品	榎町 地域センター
木曜クラス			
入門 初級	毎週木曜日 午後6:00~9:00	基作 アリラ 散扇	本 舞 調 の 練習 幡ヶ谷 社会教育会館

駒込教室			
水、金曜日		ワークショップ 個人レッスン	
土曜日 (第1,2,3)	初級 午後4:00~6:00	基作 本品	オフィス・ ストライプ
	中級 午後6:00~8:00	発表会 の練習	
日曜日 (第2,4)	午前11:00~午後1:00	作品練習	
	午後1:00~3:00	散調舞	
	午後3:00~5:00	基作 本品	

◎活動報告

◎ 2007年1月、2月にわたり計6回、散調舞のワークショップを行った。

◎ 2月24日(土) 名古屋国際空港セントレア2周年記念イベントに出演。二回公演をし、お客様は延べ三百人。演目は五方舞、閑良舞、扇舞、長鼓舞など。

◎ 3月31日(土) 目黒川桜まつりにて玄琴立舞、鳥打令、長鼓舞、扇舞、サルプリ舞、太鼓舞を踊った。お客様は約二五〇人。

◎今後の予定

◎ 6月22日(金) 静岡青年商工会総会 韓国舞踊公演

◎ 7月29日(日) スタジオオカニテナ発表公演

◎ 8月27日(月) パッカナール vol.3 に出演。
在日韓国朝鮮人高齢者の福祉施設「パダ」開所祝賀会公演。